

中期事業計画(2024年度～2028年度)

マスタープランに掲げた目標

30年後(2048年)の福岡空港の将来イメージ

比類なき東・東南アジアの航空ネットワークを有する、 東アジアのトップクラスの国際空港

- 東・東南アジアの就航国数は日本一 14カ国・地域、51路線に就航
- 旅客数3,500万人(国際:1,600万人、国内:1,900万人)、
路線数100路線(国際:67路線、国内:33路線)
- SKYTRAXが実施するWorld Airport Star Ratingで世界最高水準の
5スターエアポートに定着

国際線地区の将来イメージ



国内線地区の将来イメージ



中期事業計画(2024年度～2028年度)

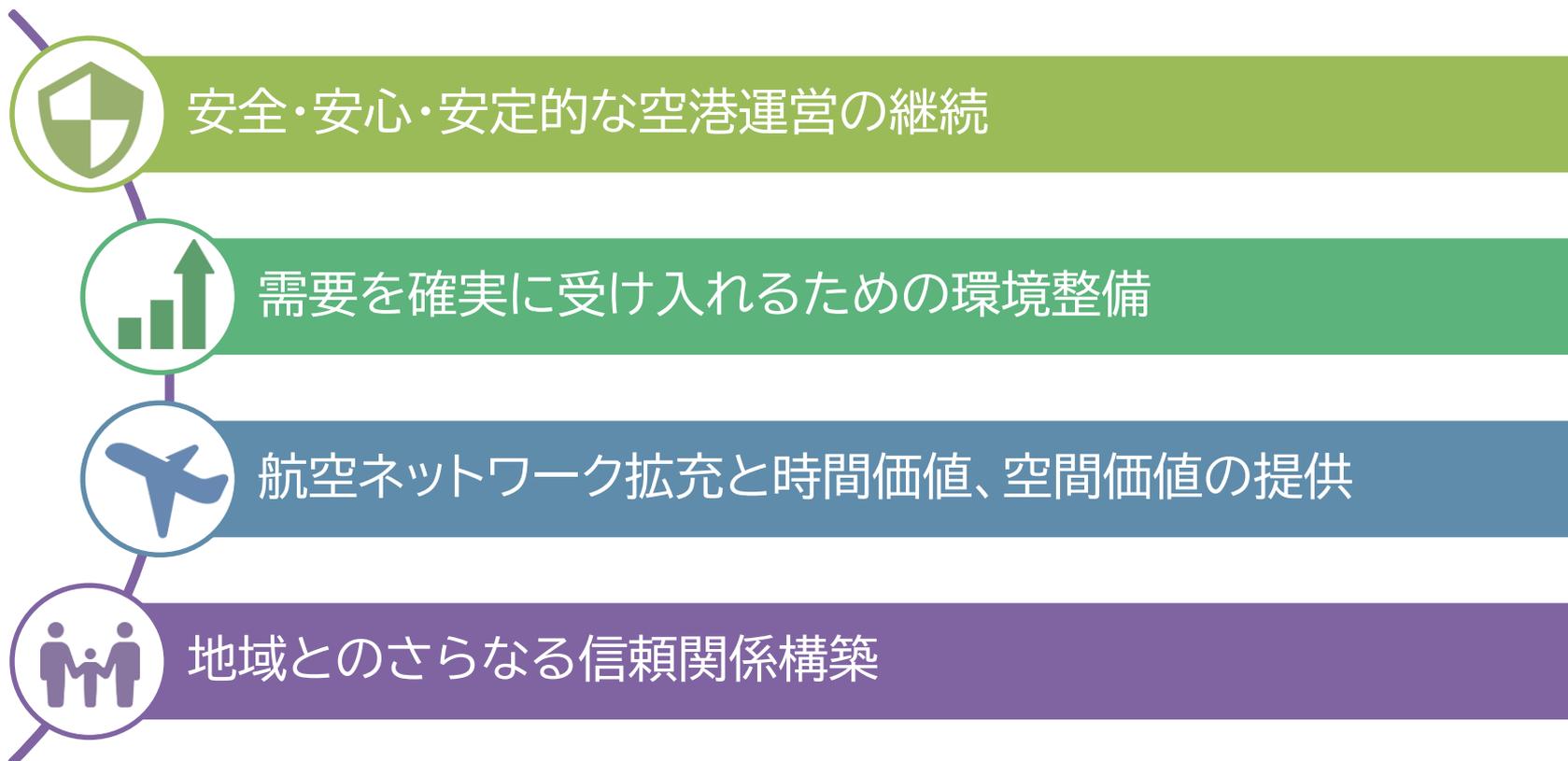
■ 旅客数(目標)

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2048年度
全 体	2,460万人	2,610万人	2,680万人	2,750万人	2,800万人	3,500万人
国内線	1,720万人	1,770万人	1,780万人	1,790万人	1,800万人	1,900万人
国際線	740万人	840万人	900万人	960万人	1,000万人	1,600万人

■ 財務指標(目標)

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
営業収益	510億円	630億円	660億円	790億円	820億円
営業利益	8億円	70億円	80億円	130億円	140億円
当期純利益	△70億円	△10億円	3億円	40億円	50億円

2024年度からの5か年においては、増設滑走路の供用とそれに伴う発着回数の増加、国際線・国内線の施設開発の完工が控えており、以下の取組を重点的に実行していく。



✓ 増設滑走路供用後の適切な管理

- 増設滑走路の供用開始後も安全で安定的に空港運用業務がなされるよう、社内体制を強化

✓ 訓練や教育の継続的な実施

- 航空機事故訓練や災害対応訓練の実施
- 空港運用業務の専門知識等を有した人材を計画的に育成し、安定的な空港運営を実施

✓ 安全意識向上策の実施

- 適切な車両運転、保安検査が行えるよう、空港内各事業所が参加する安全意識の向上を目的とした技術大会を開催
- FIAC安全推進大会や継続的な啓発活動の実施

✓ 環境に配慮した空港運営

- 航空灯火のLED化、熱源機器の高機能化・効率的な運転等による脱炭素化の推進



滑走路の点検



航空機事故訓練



GSE運転車両の技術大会の様子

✓ 国際線地区の施設整備

- 国際線旅客ターミナルビルを増改築し、二次交通を集約したアクセスホールを整備(2024年11月竣工)するほか、保安検査場や出国・入国審査場を拡張(2025年3月竣工)
- さらに増加する国際線需要を取り込むべく、南側コンコースを延伸し、スポット(駐機場)を増設(2026年度竣工)



出所: (株)船場、梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体

国際線旅客ターミナル拡張後(イメージ)

✓ ストレスフリーでスムーズな手続きの実現

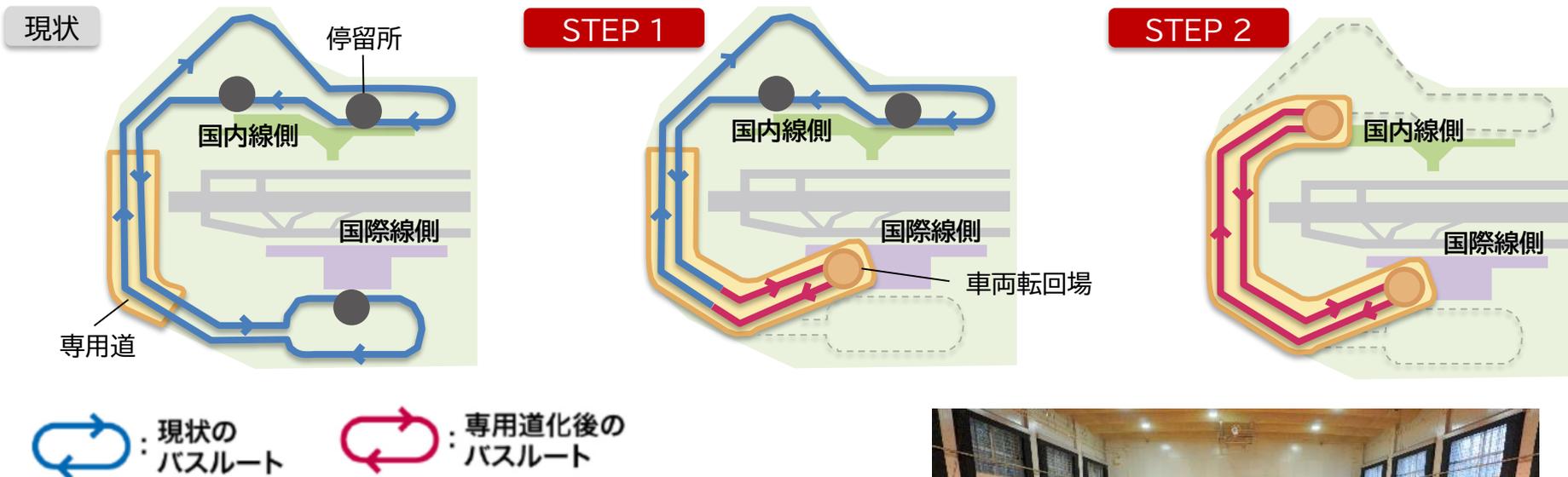
- 国内線・国際線の保安検査場を拡張するほか、スマートレーンを導入
- 国際線へ自動手荷物預け機を導入

✓ 駐車場の整備

- 国内線立体駐車場の建て替え(2024年4月竣工/1,600台)
- 国際線立体駐車場の増設(2026年度竣工/800台)

✓ 国内線・国際線間の移動円滑化

- 内際連絡バス専用道を整備し、国内・国際間の移動時間短縮・輸送能力向上
(国際線側:2024年度竣工、国内線側:2026年度竣工)



✓ 人材確保(従業員満足度[ES]の向上)

- 休憩室や食堂の整備等による働きやすい職場環境の整備
- 空港職員間の交流を促進するイベントの実施



TEAM FUK大運動会

✓ 航空ネットワークの拡充

- 東南アジアのリゾート路線や中国の未就航都市や欧米豪路線の誘致に取り組み、国際線の路線拡大(38路線)を目指す(2028年度まで)

✓ 免税店の拡張

- 出国エリアの免税店を移転拡張するほか、到着免税店を整備(2025年3月竣工)

✓ 国内線複合施設の整備

- 非航空旅客の集客も促進する新たなランドマークとなる複合施設(商業施設・ホテル)を整備(2026年度竣工)
 - ホテル機能を設け、都市機能を補完
 - 旅客動線に沿った交通機能の再配置、バスターミナルの整備



出所: (株)船場、梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体
拡張後の免税店(イメージ)



出所: 梓設計・隈研吾建築都市設計事務所・西日本技術開発共同企業体
国内線複合施設(イメージ)

✓ ビジネスジェット施設の整備

- 国際線の南側コンコース延伸にあわせて受入施設を整備(2026年度竣工)

✓ SKYTRAX Certified Rating において5スター獲得(2025年度)・定着

- ✓ 地域からの要望に応じた、環境変化や時代の潮流に合わせた地域共生事業の継続
- ✓ 地域共生事業の「まち・ひとづくり」施策により、空港周辺地域および空港の持続的発展に貢献



巡回健康診断の様子



移転補償跡地における実証実験の様子
(竹パン作り)



まちづくりワークショップの様子

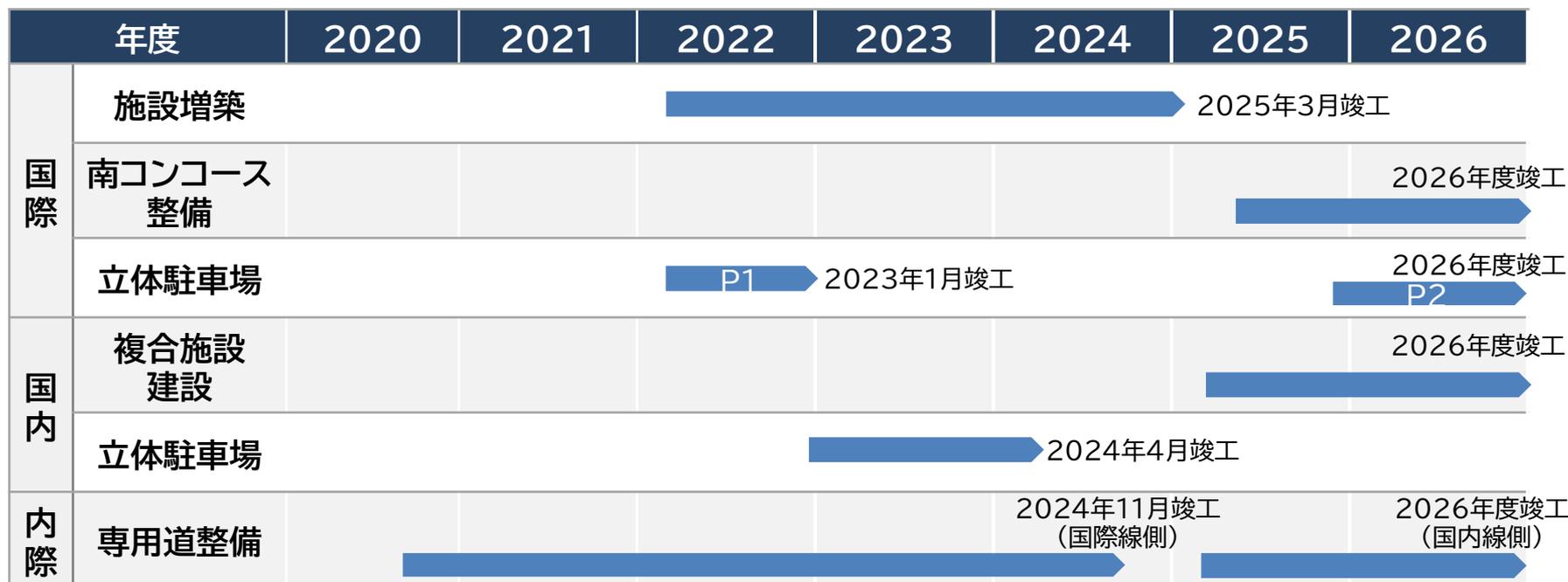
福岡県の空港の将来構想実現に向けた協力

- ✓ 24時間利用可能で発着枠に余裕がある北九州空港の特性を活用
 - 北九州空港への貨物便の増便・誘致
 - 北九州空港と一体となり、福岡のプロモーション活動を推進

設備投資(2024年度～2028年度)

✓ 空港活性化を目的とする設備投資 5年間計 約890億円

- 国際線地区:旅客ターミナルビル施設の増築、立体駐車場整備
- 国内線地区:複合施設建設、立体駐車場整備
- 内際連絡バス専用道整備、他



✓ 空港機能維持を目的とする設備投資 5年間計 約180億円

- 空港基本施設(滑走路・エプロン・車両等)の維持管理・修繕
- 旅客ターミナルビル施設に関する修繕・更新、他

※外部環境の変化を踏まえ、投資回収等について検討を行う

主な設備投資スケジュール

国際線旅客ターミナルビル(増改築)

着工:2022年5月

竣工:2025年3月末※1

南側コンコース

着工:2025年度

竣工:2026年度

立体駐車場(P2)

着工:2025年度

竣工:2026年度

アクセスホール

着工:2023年8月

竣工:2024年11月末

立体駐車場(P1)

2023年1月竣工

内陸連絡バス専用道

着工:2020年12月

竣工:2024年11月末※2

出所: 梓設計・HOK・西日本技術開発共同企業体

国際線地区(イメージ)

[2025年3月末の施設整備後]

※1 既存の国際線旅客ターミナルビルの内部改修は
2025年11月末竣工予定

※2 国内線側は2026年度整備予定

複合施設

着工:2025年度

竣工:2026年度

立体駐車場

着工:2023年3月

竣工:2024年4月

出所: 梓設計・隈研吾建築都市設計事務所・西日本技術開発共同企業体

国内線地区(イメージ)